自分の歯を大切に

崎 玉 県

阪 初彦

私は自分の歯を大切にしたいという考えで。
a. 患者の歯の病巣の治療だけでなく、病巣の原因であるライフスタイルの改善（慶流清掃、食事指導その他の指導）を行っているが、今回はこれらには触れられない。
b. 歯の腐食をなるべく避け、歯と骨との連絡、相互の関係を大切にしている。
今回は、b について若干の症例を報告したい。

1. 歯肉縁下の残根の挺出

歯肉縁、骨縁下まで崩壊した残根の多くは抜歯される。そういう歯でも、歯肉縁、骨縁上に挺出させて活用できる。矯正用ブラケットやワイヤー用いる方法もあるが、義歯床を利用して挺出させることができる（図 1-3）。

なお中間部の残根では、切り込みを頸側に、フックを舌側につけば同様にできる。

図 1

図 2

図 3

38-1364
2. 智歯の利用

智歯の利用法にはいろいろある。特に、前方の歯列を
失っている場合には、遊離端にしないために大切にする。
図 4-a～d の症例は 18 歳の女性で下顎第 1 大臼歯を
失っていた人で、7を8の位置に8を7の位置に移動し、
自分の歯で補綴に代えた例である。

3. 歯周病

一般に少し重症な歯周病があると、すぐ抜歯する傾向
がある。図 5 は昭和 40 年当時 30 歳で、一度は総義歯の
宣舌を受けた患者の上顎第 1 大臼歯である。a は術前、b
は術後 5 年半で、22 年後の今日でも健在である。

図 6, 7 は 22 歳の女性。新潟の先生から一時的に預っ
た方である。aは術前 bは術後9カ月である。Iは根尖までキュレットが届き失活したので抜歯し、こんな状態でも咬めるのである。歯は骨を呼ぶともいえる。

歯を大切にしたいと思う。そうした上で、なおやむを得ない時にインプラントを考えるべきだと思う。